

中級障がい者スポーツ指導員 2020/3/11

【求められる指導者像】

- 障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する専門的な知識と障がい者に対応するための技術と経験を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。
- 指導計画を立て、プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、各競技の基本的な技術や練習方法を指導する。 ○障がい者がスポーツすることの意義や価値をプレーヤーと障がい者スポーツを取り巻く人々に伝える。
- 地域の大会や行事では運営のリーダーとして参加者を支援し、スタッフをまとめる。また、全国障害者スポーツ大会の役員として参加する。
- 地域の障がい者スポーツ振興の課題を理解し、関係諸団体と連携してその解決をめざす。 ○上級障がい者スポーツ指導員資格取得をめざすなど自己研鑽を積むようにする。

基準カリキュラム 新旧対照表(中級)

旧カリキュラム(56h以上)			新カリキュラム(57.0h以上) 2020年4月～						
NO	講習科目	時間(h)	時間(h)	授業形態	新規	NO	講習科目	目的	カリキュラムの柱・講義方法
1	文化としてのスポーツ	2.0	3.0	講義 演習	★	1	スポーツの意義と価値	スポーツが本来もつ、身体的・文化的・社会的な意義や価値について学ぶ(スポーツのインテグリティ含む)。	・スポーツの意義や価値、文化としてのスポーツのあり方 ・スポーツ文化の構成要素 ・スポーツのインテグリティを脅かすもの考える(事例と防止方法について) ・参加型(アクティブラーニング)とし、自身の考えを表現する
2	障がい各論	11.0以上	12.0以上	講義		2	障がい各論	障がいの種類や特性について医学的な知識を学び、日常生活やスポーツ現場で関わるうえでの留意点について学ぶ。	・各障がいに対する専門的(医学的)な知識の学習 ・身体障がい7.5h(肢体不自由3.0h、視覚障がい1.5h、聴覚・音声言語障がい1.5h、内部障がい1.5h) ・知的障がい(発達障がいを含む)3.0h ・精神障がい1.5h
3	身体の仕組み	2.0	3.0	講義		3	身体の仕組みと体力づくり	身体の仕組みやトレーニングの原理・原則を理解し、障がい者の体力向上トレーニングや健康づくりのための運動指導について学ぶ。	・骨格・筋肉・神経・呼吸循環器等の解剖学的・運動生理学的知識 ・体力の定義 ・トレーニングの原理および原則 ・障がい特性に応じた体力・技術向上のトレーニング方法
4	トレーニング論	3.0	3.0	講義		4	補装具の理解	補装具の種類を理解し、その取扱いについて学ぶ。	・補装具の種類や名称および用途(義肢、車いす、下肢装具、歩行器、杖など) ・競技・日常で使用する補装具の操作や管理方法(体験等含む) ・補装具のパフォーマンスに与える影響(リスクや留意点)
5	補装具の理解	2.0	1.5	講義		5	救命処置法	救命手当や応急処置の方法、手順さらには事前の準備や事後の留意点について実技を通して学ぶ(心臓蘇生法、AED、気道異物除去、熱中症、外傷など)。	・救命手当(心肺蘇生法、AED、気道異物除去など)の実践 ・熱中症や外傷など応急手当の方法、実践 ・事前に準備しておく項目、事後の留意点について
6	救命処置法	3.0	3.0	実技		6	スポーツ心理学 I	障がい者について受容から心理的プロセスを学ぶ。さらに障がい者の体験談を通して、スポーツの心理的効用と心理的支援の方法について学ぶ。	・運動、スポーツを通じた障がい受容の過程(心的過程) ・スポーツの心理的効用 ・心理的なスキルや支援法の実践
7	スポーツ心理学 I	3.0	1.5	講義		7	発達・発達に 応じた指導法	身体の発達・発達原則と精神的な発達、知的障がいの特性に応じた発達・発達観から運動指導の留意点について学ぶ。	・発達と発達の定義や原則の理解 ・身体、認知、運動、ことばの発達等の特徴に関する理解 ・身体、認知、運動、ことばの発達に応じた運動指導時の留意点
8	発達・発達	3.0	3.0	講義		8	最重度障がい者のスポーツの実際(重症心身障がい児・者を含む)	最重度の障がい者(重症心身障がい児・者を含む)のスポーツを理解し、様々な創意工夫の実例について学ぶ。	・重症心身障がい児・者にとつてのスポーツの意義 ・スポーツを実施するうえでの留意点 ・事例の紹介を通して工夫や支援について考える
9	最重度障がい者のスポーツの実際	2.0	1.5	見学 実技 可		9	障がい者のスポーツ指導における留意点	障がい特性に応じた支援・指導法を理解し、スポーツ指導場面における留意点について学ぶ。また、指導案を作成するうえでの基本的なポイントについて学び、個別指導をする際の指導案を作成する。	・各障がい特性に応じたスポーツ指導上の留意点(講義)について学び指導案を作成(グループワーク) ・全国障害者スポーツ大会実施競技・種目を想定し、指導案を作成(個人対象の指導案) ・講義1.5h、作成1.5h、発表・評価1.5h
10	障がい者のスポーツ指導における留意点	3.0	4.5	講義 演習		10	全国障害者スポーツ大会実施競技の指導法と競技規則	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチに必要な知識・技能を学ぶ。	・陸上競技3h、水泳3h、その他全国障害者スポーツ大会の競技より3競技を選択し各2h ・その他3競技には、2021年大会より正式競技として導入される「ボッチャ」を実施することが望ましい ・視覚障がい者スポーツや車いすスポーツなど幅広く、競技・種目を取り入れることが望ましい ・初心者への導入方法および留意点
11	全国障害者スポーツ大会実施競技の指導法と競技規則	12.0	12.0	実技		11	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義	全国障害者スポーツ大会の成り立ちや歴史の変遷を学ぶ	・1964年第2回東京パラリンピック競技大会の開催から(財)日本身体障害者スポーツ協会の設立を経た開催経緯 ・大会実施競技や参加対象障がいの変遷 ・地域の障がい者スポーツの推進に対する大会の役割
12	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義	2.0	1.5	講義		12	全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割	全国障害者スポーツ大会へ帯同するスタッフとして、代表選手の選考方法および選手や選手団に必要なサポートについて学ぶ。	・選手団の編成や選手選考・派遣日程や費用 ・大会申込(エントリー)の手順・行程の組み立て方 ・選手の健康管理やコーチに求められる選手へのサポート(競技面、生活・宿泊面) ・選手団における役割(選手サポート以外の部分)
13	全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割	2.0	1.5	講義		13	全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分	全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の概要を理解し、適用されている障害区分を学ぶ。	・大会実施競技の紹介と競技規則 ・障害区分の目的と意義など基本的な知識 ・障害区分の実際(判定方法や判定のポイント、判定事例の紹介、例題の実践)
14	全国障害者スポーツ大会の実施競技	2.0	3.0	講義		14	リスクマネジメント	リスクマネジメントに関する基礎知識を学び、障がい者スポーツ指導現場における事例を学ぶ。	・事故を未然に防ぐための準備(リスク予測・準備と事後対応) ・スポーツ活動場面別リスクマネジメント(大会・教室・イベントなど) ・障がい者スポーツ指導現場におけるリスクマネジメント(事例の紹介) ・情報共有の重要性
15	全国障害者スポーツ大会の障害区分	2.0	3.0	講義		15	障がい者スポーツ指導員としてのキャリア形成	過去と将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像を形成する。	・キャリア形成の重要性・キャリア形成のイメージづくり ・指導員として得ることができる知見の理解 ・講義方法 ・事前課題の作成・提出(課題テーマは「過去のスポーツ歴の整理」「障がい者スポーツ指導者のあるべき姿とは?」等) ・グループワーク、ブレインストーミング、プレゼンテーション ・時間の最後に「自身の指導者像、今後の取り組み」についてまとめる
16	スポーツと栄養	2.0	1.5	講義	★	16	地域における障がい者スポーツ振興	障がい者スポーツに関わる諸団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。	・地域における障がい者スポーツ団体の役割・活動(障がい者スポーツ協会・障がい者スポーツ指導者協議会) ・地域の関係団体との連携の必要性・意義・あり方(行政、福祉、教育、医療、スポーツ関係団体等) ・「地域における障がい者スポーツ振興事業」の事業事例 ・認定校では地域の障がい者スポーツ協会、指導者協議会の方に講師を務めてもらうことが望ましい